

2024 年度  
神戸大学大学院工学研究科 博士課程前期課程  
機械工学専攻 入学試験問題

**科目名：材料力学 [ 1 / 2 ]**

(問題 [1], [2]は別々の指定の答案用紙に解答すること。)

[1] 図 1-1 に示すように、剛体棒 ABC が点 B で回転支持され、端部 A が断面積  $A_1$ 、長さ  $L$ 、縦弾性係数  $E_1$  の弾性棒 AD でピン結合により吊り下げられている。集中外力  $P$  を剛体棒上の A から  $x$  ( $0 \leq x \leq 3a$ ) 離れた点 G に鉛直下向きに作用させた。以下の問い合わせに答えなさい。ただし、剛体棒や弾性棒の質量は無視し、弾性棒の変形や剛体棒の回転角は微小であるとする。

- (1)  $x=a$  のとき、集中外力  $P$ 、弾性棒 AD に作用する引張の軸力  $N$  を用いて、点 B まわりのモーメントのつり合い式を書きなさい。
- (2) 弹性棒 AD に作用する軸力が引張となる  $x$  の範囲を求めなさい。
- (3) 鉛直下向きを正とするとき、点 A に生じる鉛直方向変位  $\delta_A$  が最大となる  $x$  およびその時の  $\delta_A$  を求めなさい。

次に、図 1-2 に示すように点 B から  $a$  離れた点 C に、下端が剛体床にピン結合された断面積  $A_2$ 、長さ  $l$ 、縦弾性係数  $E_2$ 、線膨張係数  $\alpha$  の弾性棒 CF を設置し、この弾性棒の上端を剛体棒 ABC の端部 C にピン結合した。

- (4) 集中外力  $P$ 、弾性棒 AD に作用する引張の軸力  $N$ 、弾性棒 CF に作用する引張の軸力  $Q$  および  $x$  を用いて、点 B まわりのモーメントのつり合い式を書きなさい。
- (5) 点 A に生じる鉛直下向きの変位  $\delta_A$  および点 C に生じる鉛直上向きの変位  $\delta_C$  を、 $N$  および  $Q$  を用いて表しなさい。
- (6) (5)の  $\delta_A$  および  $\delta_C$  の間に成り立つ関係式を書きなさい。
- (7) 弹性棒 AD に作用する引張の軸力  $N$  を求めなさい。
- (8) 弹性棒 CF にのみ温度上昇  $\Delta T$  が生じた。このとき弾性棒 AD に作用する引張の軸力  $N$  を求めなさい。

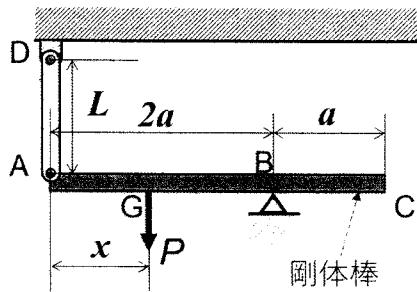


図 1-1

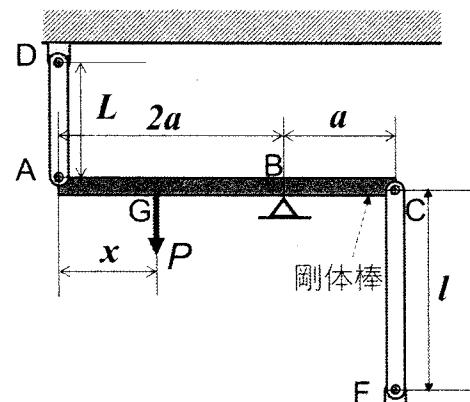


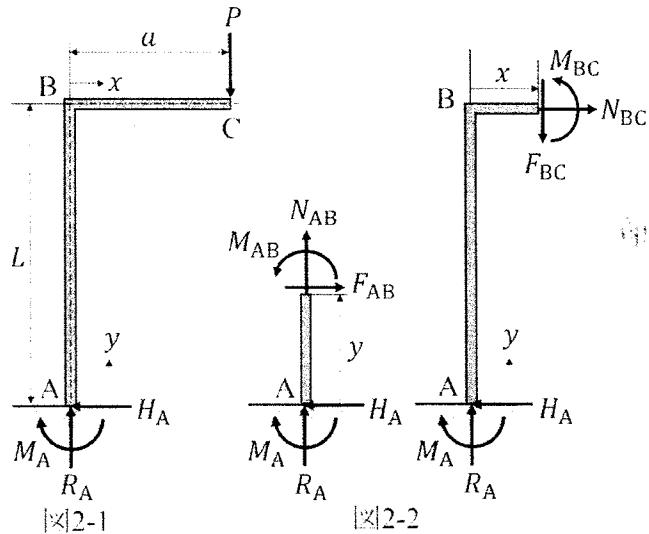
図 1-2

科目名：材料力学 [ 2 / 2 ]

問題[1], [2]は、別々の指定の答案用紙に解答すること

[2]

図 2-1 に示すように、棒 AB および BC を点 B で直角に剛接した L 字形の部材 ABC が、点 A で固定支持されている。部材の点 C に、鉛直下向きの集中外力  $P$  を作用させる場合を考える。以下の問いに答えなさい。ただし、部材 ABC の断面二次モーメントを  $I$  とする。また、部材の変形は微小であり、軸力による伸縮やせん断力によるたわみの影響、重力の影響は無視できるものとする。



- (1) 点 A における支持力  $R_A$ ,  $H_A$  および支持モーメント  $M_A$  (それぞれ図 2-1 に示した方向を正と定義する) を求めなさい。
- (2) AB 間の点 A から距離  $y$  の横断面に作用する軸力  $N_{AB}$ , セン断力  $F_{AB}$  および曲げモーメント  $M_{AB}$  を求めなさい。また、BC 間の点 B から距離  $x$  の横断面に作用する軸力  $N_{BC}$ , セン断力  $F_{BC}$  および曲げモーメント  $M_{BC}$  を求めなさい。ただし、軸力、せん断力および曲げモーメントの向きは図 2-2 に示す方向を正とすること。
- (3) 部材 ABC の BC 間が剛体、AB 間が縦弾性係数  $E$  の材料で作られているとき、点 C の集中外力  $P$  が作用する方向の変位  $\delta_1$  を求めなさい。
- (4) 部材 ABC の AB 間、BC 間ともに縦弾性係数  $E$  の材料で作られているとき、点 C の集中外力  $P$  が作用する方向の変位  $\delta_2$  を求めなさい。

図 2-3 に示すように、小問(4)の L 字形の部材 ABC の点 B と剛体壁の点 D の間に、長さ  $a$ , 断面積  $A$ , 縦弾性係数  $E_W$  のワイヤーをゆるみがないよう張った状態で、点 C に鉛直下向きの集中外力  $P$  を作用させる場合を考える。

- (5) ワイヤーの伸び  $\delta_T$  を、ワイヤーにかかる張力  $T$  を用いて表しなさい。
- (6) 点 B の水平方向右向きの変位  $\delta_B$  を、 $T$  および  $P$  を用いて表しなさい。
- (7)  $\delta_T$  と  $\delta_B$  の関係式を書き、 $T$  を求めなさい。
- (8) ワイヤーが破断する限界の引張応力が  $\sigma_{cr}$  であるとき、破断直前の集中外力  $P$  の大きさ  $P_{cr}$  を求めなさい。

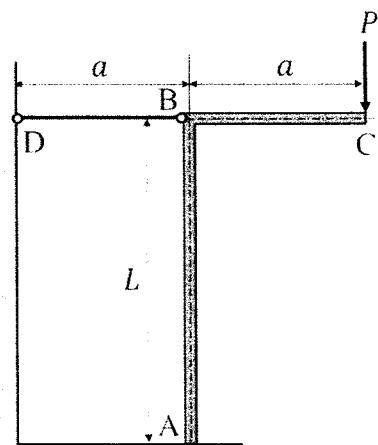


図 2-3